

「シユミが合う人」 連々

▽主役：図書委員。うるさいのと散らかってるのは苦手。カウンターの無愛想な先輩で名が通っている。自分の好きな本をことごとく借りているヒロインが気になつていてる。

当番は火、木曜日。

（放課後のチャイム、ヒロインが本を借りに来る。図書室には2人以外誰もいない）

……ねえ。

そんなにびっくりされると困るんだけど。君、こういうジャンルばつか読んでるよね。よくご存じでとか、図書委員の俺が手続きしてんだから知つてておかしくはないでしょ。ココってあんまり利用者いないし。今だつて誰もいないしさ。ま、楽でいいんだけど。

そんなびくびくされると、まるで洞鳴どうかくしてゐみたいじゃん、俺。

ただ、興味があつたから聞いてみただけなのに。

……何笑つてんの。あー……んーまあ確かに意外かもね。声かけるのは初めてだし。
（全然良くないと思つてゐる）

え、俺有名？は、ブアイソウ……？　――――別に、いいけどさ……。

（好きなジャンルを問うヒロイン）

俺？あー……俺も、それ系好き。うん。特に、その作者が。

ちょっと現実離れしたものでも、なんか手に取るように分かる表現が好きなんだ。違和感なく。ホントどんどん読める。その次に出たやつ、今度入ってくるらしいから読んでおくといいよ。

……まあ、うん。好き。人と趣味が合うことってなかなかないし。

今月のオススメ？あー、俺その本にしてたんだつけ。

好きで図書委員なつてるやつなんて少ないからさ、毎月何にするか皆悩んでるけど、俺は好きなもの書いて出してる。掲示板見てる人もいるんだね。

俺のを、参考に？あー……そつか。フフツ。

これで理解した。俺と趣味が合う理由。

あと、どうして俺が君の借りてる本を網羅できてるのか。

（顔を赤らめるヒロイン。少し艶っぽく）

顔が赤いってことは、俺の想像通りでいいのかな。

いやあ……次の俺の当番の日、分かつてよね？ちゃんと……来てね。

以上 599 字

©連々 <https://www.renrenrenren.com>

二次配布と自作発言は禁止しています。フリー台本であることを記載してください。